

## 文献の相互利用 —会員へのアンケートから—

高山赤十字病院 木下 久美子  
静岡赤十字病院 天野 いづみ

### I. はじめに

日赤図書室協議会の主な活動のひとつに、資料の共同利用がある。平成11年に、天野(静岡)・木下(高山)が有志の協力を得て「日赤医学雑誌総合目録1999」を発行した。平成12年には、原田(大宮)・飯田(浜松)・前澤(長野)が2000年版を、また、天野が「資料の相互利用—文献申込と受付のマナー」を発行した。これにより、資料の共同利用の基盤が整った。

そこで、平成13年4月に会員に対して相互利用のアンケートを行ったので、その結果を報告する(回答:33施設、回収率:85%)。

### II. 文献の申込・受付件数

平成12年度における他機関への文献申込の状況は表1の通りである。1施設あたりの平均申込は632件だが、1500件を越える施設もあれば10件以下の施設もあるなど、施設によって件数にばらつきがある。

申込の優先順位は、「地域ネットワーク・病院図書室、ついで近隣の大学、遠方の大学へ」がルールである。しかし、事情があるのか大学図書館に偏る施設もあった。

表1 文献の申込件数 (平成12年度)

依頼先	依頼件数
会員図書室等	4434件(21%)
会員以外の病院図書室	4831件(23%)
大学図書館等	10217件(49%)
その他	1372件(7%)
合計	20854件

その他:医学中央雑誌刊行会等や文献業者への依頼

平成12年度における他機関からの文献申込(受付)は表2の通りである。会員(日赤)からよりも、他に加盟する病院図書室ネットワークからの依頼(受付)が多い。

1施設あたりの平均受付は367件だが、2000件を越える施設もあれば10数件という施設もあり、申込同様、施設によってばらつきがある。

表2 文献の受付件数 (平成12年度)

依頼先	依頼件数
会員図書室等	4508件(37%)
会員以外の病院図書室	7276件(60%)
大学図書館等	130件(1%)
その他	274件(2%)
合計	12188件

その他:地域の開業医への提供など

### III. 会員間での相互利用について

会員間での相互利用をみると、全体では申込と受付件数がほぼ同じであるが、受付が1000件以上の施設もあれば10件以下の施設もあった。

受付の多い施設は、病院規模も大きい傾向がみられるが、中規模でも専任担当者のいる施設は件数が多い。受付の多い会員に作業負担を尋ねたところ、「会員からの申込については支障を感じていない」という返事がほとんどであった。しかし、ある会員は「日赤同士という甘えからか、申込マナーの悪い会員がいる。近畿病院図書室協議会に準じて、コピー料を50円に値上げしたく、検討中」と

いう返事だった。相手に負担をかけないように、申込マナーを守ることが大切である。

一方、申込みに比べ、受付が少ない施設にその原因を尋ねると、「支払い方法が、郵便振替でなく銀行振込のせいと思うが、現状では病院（会計担当）の了解が得られない」、「他のネットワークに加盟していないので、日赤会員に頼らざるを得ない」といった返事だった。

県内に病院図書館ネットワークがある場合は、できるだけ参加していただきたい。病院図書館研究会・近畿病院図書館協議会など、全国規模のネットワークもあるので、可能なら入会していただきたい。文献の入手ルートが広がるだけでなく、研修会・会報などを通じて、得るものは大きい。

#### IV. 文献の所蔵館調査ツール

文献の所蔵館を調べるための各種雑誌目録等の利用状況は以下の通りである。

表3 所蔵調査に利用する目録等

	利 用	非利用	無回答
日赤図書館協議会の目録	33 施設	0 施設	0 施設
近病図協の目録	14	19	0
病院図書館研究会の目録	12	19	2
医学図書館協議会の目録	20	12	1
学術雑誌総合目録	14	17	2
看護雑誌総合目録	11	20	2
NACSIS-WEB	24	8	1
V M L	2	28	3
O P A C	4	26	3
その他の目録	7		

近病図協：近畿病院図書館協議会

VML：医療研修推進財団の目録

その他：県内など地域病院図書館ネットワーク

#### V. 日赤医学雑誌総合目録の発行による影響

目録の発行による件数への影響については以下の通りである。

表4 目録発行の相互利用への影響

相互利用件数が増加した	25 施設
相互利用件数に影響はない	6
記入なし	2

#### VI. まとめ

今回のアンケートによって、会員図書室では文献の取り寄せサービスが定着していて、日赤間での相互利用が活発に行われていること、「日赤医学雑誌総合目録」は相互利用に欠かせないものとして利用されていることなどがわかった。

現在、2000年版に蔵書データを提出できなかった会員や新会員を加えた改訂版の目録発行が計画されている。今度は、全会員の参加を期待している。

ところで、会員施設は多くが総合病院のため、所蔵雑誌が似通う傾向がある。しかし、2000年版では日赤の看護大学・短大・学校図書館からデータを提出していただくことができ、看護・福祉・心理学関係などの雑誌が大幅に増えた。この場を借りて深謝する。また、今後も参加して下さるのを期待している。

昨今、外国雑誌は毎年のように購読料が値上げされる。しかし、それに応じて雑誌費を増額できる施設ばかりではないだろう。これに対抗するには、文献の相互利用が一番である。特に、日赤間では「気軽に・迅速に・安価に」をモットーに、一層活発に行いたい。しかし、「相互利用」というからには、相手から take するばかりではなく、give できる関係が望ましい。文献は提供できなくても、違った形で相手にお返しできる場合もあるだろう。広い意味での「相互協力」を各自で考えていただきたい。

将来的にはインターネット上で所蔵館調査や申込のできることを望まれる。しかし、現状では、会の活動とするには、作業負担・経費など課題が大きい。

ところで、NACSIS-WEB は病院図書室も参加できるのをご存じだろうか。各自で参加されてはどうだろう。大学図書館への文献提供の可能性もでてくるのでは是非検討していただきたい。

一方、共同購入で安価に利用できるオンラインジャーナルがいろいろ登場している。これらは、会の今後の課題といえるだろう。